

いちだい地域共創プロジェクト



いちだい地域共創プロジェクトは、本学の教職員や学生が地域の関係者等と協働して、地域社会が直面する課題の解決に取り組むことで、広島広域都市圏およびその周辺地域の地域活性化と持続的発展に貢献することを目的として、2022年度から始めた事業です。



▶2025年度採択事業（教員の所属・職名は2025年度時点）

01 広島歴史紙芝居のデジタル化・映像化

課題提案地域団体：ワンチーム・れきし紙芝居
代表教員：芸術学部 教授 笠原 浩

★2024-2025年度採択事業

【活動の目的】

市民団体「ワンチーム・れきし紙芝居」では、広島歴史を紙芝居として伝える活動を行っており、既に6作品が完成している。今後は新作の制作に加え、既存コンテンツのデジタル化・映像化を通じてアーカイブ化と発信力の強化を目指す。団体メンバーの高齢化により新規媒体への対応が困難なため、協議の上、技術支援と助言を行い、未来へ歴史を継承する体制づくりを支援する。



02 北広島町アートプロジェクト

課題提案地域団体：NPO法人ねきえ
代表教員：芸術学部 講師 山浦 めぐみ

【活動の目的】

活動場所となる広島県北広島町には、美術館がない。美術館のない町で、こどもたちや町の人たちに、アートと触れ合う機会を提供するため、芸術学部の有志学生による展覧会とワークショップイベントを現地の施設（豊平地域づくりセンター）で企画・開催した。

ワークショップでは、日本画の和紙や岩絵具、顔料を使った葉づくりや展覧会場周辺の木の実や葉っぱ、雑誌や広告などをコラージュした作品づくりなどを楽しみました！



03 VR映像による広島の魅力発信

課題提案地域団体：VR旅行DAO
代表教員：情報科学研究科 講師 岡本 勝

【活動の目的】

地域の美しい自然や歴史・文化を、VR映像を活用して、どこにいても誰でも気軽に楽しんでもらうことを目的として活動している。新しいテクノロジーを活用して地方創生に寄与したいと考えている。2025年度は、広島県内で360度カメラを用いたVR映像の収録を実施した。



04

広島湾岸トレイル構想事業 山歩きの魅力と効能の考察とPRツールの制作

課題提案地域団体：広島湾岸トレイル協議会 ★2023-2025年度採択事業
代表教員：芸術学部 准教授 藤江 竜太郎

【活動の目的】

広島湾岸トレイルは、山・川・街・海・島を巡る全長291.9kmの都市隣接型周回トレイルで、世界でも類を見ない魅力を持っている。市民が立ち上げたこの道は、現在も高齢の市民団体によって維持・運営されているが、継続性が課題となっている。そこで本プロジェクトでは、本学学生が実際に歩いて体験し、若者ならではの視点で魅力をPRツールで発信することで、若年層やファミリー層の利用を促進し、将来的な整備・運営への関心を高めることを目指した。活動3年目となる2025年度は、イチダイトレイル整備・運営活動やロゴマーク・グッズのデザインなどを行った。



05

芸北の茅葺き（かやぶき）文化を未来へつなぐプロジェクト

課題提案地域団体：NPO法人西中国山地自然史研究会
代表教員：地域共創センター 特任准教授 平尾 順平

【活動の目的】

芸北地域では、かつて茅場（ススキ原）が集落ごとに存在しており、地域住民が協働で管理しながら茅葺き屋根を維持してきた。一方、1960年代以降は屋根材の変化により茅葺き屋根は急速に減少した。これにともない、茅場の維持も困難となり、草原環境の減少や生態系の変化などが起こっている。そこで、広島市立大学の学生や都市部の住人が現地を訪れて調査や体験、現地の方々との対話を行い、最終的に「インタープリテーション（IP）」の手法を用いた体験型ガイドプログラムを開発し、実践した。この活動を通じて、茅葺き文化の価値を見つめ直すとともに、若い世代を含む広域都市圏の人々と地域との新たな交流機会を生み出した。



06

だんばらのえんこうさん ★2023-2025年度採択事業

課題提案地域団体：段原おやじの会
代表教員：芸術学部 准教授 城井 文

【活動の目的】

大規模再開発で町並みが一変、人々の生活や近所の交流も変化した。再開発が落ち着いてから数十年が経過し、過去の状況を知らない住民が増えている。段原地区への愛着を醸成するため、絵本の制作に取り組んだ。本プロジェクトは2023年度から実施しており、2025年度は完成した絵本を活用して本学学生が読み聞かせ会を行ったり、原画展を開催した。2026年度は、市大生チャレンジ事業として受け継がれ、絵本の演劇化に挑戦する。

